

## 平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人鹿屋体育大学

### 1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、スポーツ科学・体育学領域における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、教育研究の成果を広く発信するとともに、開かれた大学として、生涯学習の機会の提供、教育研究資源の開放、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ文化の向上に貢献すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、鹿屋市との連携協定に基づき実施している「スポーツ合宿まちづくり推進事業」において、プロ野球選手やプロサッカー選手等の動作を測定・分析し、スポーツ科学の発展と競技力向上に貢献するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間において、体育・スポーツ領域の学術をリードしていくための教育研究の強化を目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、筑波大学との共同専攻設置に向けて、スポーツ国際開発共同学位プログラム及び高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラムを実施している。また、スポーツ国際開発学専攻（修士課程）及び大学体育スポーツ高度化共同専攻（博士課程）の平成28年度開設に向け準備を進めた。

#### 大学の機能強化に向けた取組の状況について

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた「スポーツ・フォー・トゥモロー」プログラムの一環として、主にアジア諸国の大学院レベルの学生やトップコーチ等を対象に、アジアでのオリンピック教育プログラムの開発とグローバル人材育成を目的とした「鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー」を平成26年度より継続して実施し、オリンピックの普及を図るとともにスポーツ医学研究を推進している。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

#### ○ 事務局の企画調整機能の充実による学長補佐体制の強化

事務局の機能強化を図り、学長のリーダーシップによる全学的な制度改革や大型プロジェクト等の推進に迅速に対応できる体制を整備するため、企画調整役（部長級）を配置しており、企画調整役が中心となって担当課と連携し、大型プロジェクトへの予算要求、概算要求や年俸制導入に向けての評価基準や規則整備を行うほか、自治体・企業・報道機関との連携協定締結のための連絡調整を行っている。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

#### ○ 体育施設の貸し出しによる資産の有効活用

保有資産の有効活用の観点から、屋内外の体育施設の一時貸出しを積極的に推進しており、地域スポーツクラブや他大学との合同合宿等により延べ5万796名が利用している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 学生の能力分析の工夫

学外スポーツ実習及び企業実習に関し、学生の能力評価をレーダーチャートで得点化することで、学生自らが実習前後の能力変化を視覚的に分析・評価することを可能としている。

### ○ 入学者選抜の追跡調査結果の活用による入学前教育

アドミッションセンターにおいて、学生の入学前後の競技・学業成績等のデータを蓄積し、「体育学部入学者選抜に係る追跡調査結果」としてまとめ、入学前における学習意欲向上のためのe-learningに活用している。

### ○ 学生の就職支援の充実

キャリアデザイン科目の授業や就職ガイダンス等において、OB・OGや専門家等の外部講師による講話を実施し、就職活動に対する学生の意識高揚を図り職業観・就職観を深める機会を提供するとともに、一般企業等の採用試験の方法や試験問題等について、概要説明や試験対策の情報提供を行っている。

### ○ 競技力向上に向けた組織的な支援

競技力向上委員会において、重点強化指定選手及び重点強化指定チームとして、それぞれ46名、7チームを指定し、強化コーチ並びに学内の研究者で構成される強化組織が支援を行っている。その結果、全日本（学生）大会での多くの優勝だけでなく、国際大会でもユニバーシアード競技大会での優勝3名、アジア大会優勝1名などの成果を挙げている。

### ○ 特色を活かした地域貢献

地域でのスポーツ振興や市民スポーツ活動の活性化に寄与するため、学生スポーツボランティア支援室が中心となって、地域の学校やスポーツ団体等に学生を派遣し、ボランティアとしてスポーツ指導を行っている（平成27年度派遣先数：延べ18団体、派遣者数：延べ48人）。